

 <b>Viet Nam</b>	学校名：さいたま市立大砂東小学校 氏名：大原則子	● 実践教科等：学活・社会 ● 時間数：6時間 ● 対象生徒：小学4年生 ● 対象人数：37人
	[担当教科：小学校全科]	

## 1 単元名 世界に目を向けると

## 2 単元の目標

**ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)**

- ・世界の様々な文化・生活を知り、日本との相違点に気づき、外国への興味をもつ。  
(つながりを尊重する態度)
- ・世界が抱える問題について知り、自分たちに何ができるかを考えることができる。  
(進んで参加する態度)

## 3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る   | 2 子供の多様な考えを引き出す          |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する      |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する  | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る   |                          |

## 4 単元の指導について

### (1)教材観

本単元は、ベトナムの国の生活習慣や文化を通して諸外国への興味付けを行い、それぞれの国が抱えている問題について知り、世界へ目を向けることをねらいとしている。  
4年生の社会科では、1学期にごみについて学習している。ごみを処理する仕組みや施設で働く人の工夫や努力について理解を深めた。それをもとに、ごみを減らすために自分たちができる工夫について考えた。2学期は水についての学習を行う。その際に世界の水事情について視野を広め、水は大切な資源であることを知り、これらからの生活において水を大切にするために自分たちができることについて考えさせていきたい。

### (2)児童生徒観

本学級の児童は明るく、元気で素直な子が多い。英語の授業を通して外国の文化や言葉に触れ、諸外国に興味をもっている児童もいる。学年内に外国につながる児童が多く在籍しており、海外での様子を知るなど外国を身近に感じることができる。その中で日本と外国の相違点に気付くこともある。

外国の名前は知っていても詳しい様子については知らない。以前、学校に行けない世界の子どもたちの様子について学習した後、外国の様子に興味をもち調べている児童もみられた。

社会では学習の初めに地図帳クイズを行い日本国内や海外の場所、外国の国旗などにも興味をもちながら学習に取り組んでいる。

社会科で学習したごみや水問題など、身近にある自分たちの問題と諸外国の問題をつなげて考えさせ、外国への関心を深めさせていきたい。

近年は物があふれているため、一つのを大切にしない傾向がみられる。自分たちが使っているものが当たり前ではなく、貴重な資源であることも考えさせていく。

### (3)指導観

ベトナムの文化や言葉に触れ楽しく学ぶことで、海外への興味・関心をもたせていきたいと考えた。地図帳などを活用しながら様々な国についても触れていく。イメージマップ作りを好む児童が多いのでフォトランゲージを取り入れるなどして、興味を引き出す工夫を取り入れながら授業を展開していく。

自らの考えを互いに述べ合うことに苦手意識をもっている児童もいるため、わかりやすい資料を提示し、個別で考える時間を確保した上で、グループ活動へとつなげていきたい。

## 5 評価規準

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・ 判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象につい ての知識・理解
評価規準	・人々の健康な生 活や良好な生活環 境に興味をもち、意 欲的に調べようと している。	・世界が抱える課 題を捉え、自分が できることについて 考えたりしている。	・地図や各種の資 料と活用して調べ、 調べたことを書いたり、まとめたりする ことができる。	・人々の健康な生 活や良好な生活環 境を守るために、 様々な人が工夫や 努力をしているこ とを理解している。
評価方法	ワークシート・発言	ワークシート・発言	ワークシート・ノート	ワークシート・ノート

## 6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	ベトナムについて 知ろう	・ベトナムの基本的な情報 について知り、ベトナムに興 味をもつ。	・ベトナムの位置確認やクイズを通してベ トナムについての理解を深める。 ベトナム語で交流する。
2	ベトナムと日本の 相違点を比べよう	・ベトナムの生活について知 り、日本との違いや共通点 があることに気付く。	・ベトナムの写真をもとに、日本との相違点 を見つける。
3	ベトナムの課題に ついて考えよう	・自分たちの生活と比べ、ベ トナムの抱える課題につい て考える。	・フォトランゲージを通して分かったこと書き 出す。 ・自分たちの生活と比較し、ベトナムの課題 について考える。
4	世界の水について 知り、自分たちに できることを考えよ う	・世界の水問題について理 解を深め、自分たちにでき ることを考える。	・世界では安全な水が得られない人がいる ことを知る。 ・資源を大切にするために自分たちができ ることを考える。
5	世界で活躍する 人について知ろ う。	・JICA のボランティア活動に ついて知り、日本が行って いる国際協力について考える 。	・JICA がベトナムで行っている支援につい て伝え、働いている人の思いを考える。 ・調べ学習をして、日本が外国に行っている 支援を知る。
6	自分たちにでき ることを考えよう (まとめ)	・水を大切に使うために、自 分たちにできることを考え る。	・今までの学習を振り返り、新聞やポスター にまとめ、交流する。

## 7 授業事例の紹介

小単元名【大切な水のために】

### (1) 指導案

(ア)実施日時 10月18日(水)第3限

(イ)実施会場 4年生教室

(ウ)本時の目標

・世界では安全な水が得られない人々がいることを知り、自分の生活と比較しながら水の大切さについて気付き、自分たちにできることを考える。

(思考・判断・表現)

(エ)指導のポイント

・ベトナムと日本の違いの中でベトナムでは水道水が飲めないことについて触れ、クラスでマレーシアから転入してきた児童の話聞き、マレーシアでも安全な水が飲めなかったということ事前に学習し、水の大切さについて考えさせた。本時は世界に目を向けて、安全な水を飲んでいる国が意外にも少ないことや水を得るために大変な思いをしている人がいることを伝え、資源を大切にしていこうとする心を養っていきたい。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	1 DIRTY WATER CAMPINGの写真を提示し、「これは何か。」を問う。【1】【4】	写真を見て、これは何であるかを考え、安全でない水を飲んでいる人がいることに気付く。	一斉	・世界には安全な水が飲めない人がいることを知り、本時のねらいへの方向付けをする。	
展開 35分	2 アイシャの一日」のグラフを見せ、自分達の1日と比べる。【4】	「アイシャの一日」のグラフを見て、自分達の生活との違いに気付く。 学校に行けない。勉強ができない現実を知る。	一斉 一斉	・事前に行ったグラフをまとめたものを見せ、自分達とアイシャの生活と比較しながら、違いを考える。 ・可哀想で終わらせないよう、水を得るための大変さに気付かせるようにする。 ・クイズ形式にして、わかりやすく提示する。 ・自分たちにできることを考えるヒントになるように、全体で考えていく。	
	3「世界の水」について知ろう①【1】 4「世界の水」について知ろう②	世界の水の現状について学ぶ。 日本が使っている外国の水等について知る。	個人		
「大切な水を守るために、自分たちができることを考えよう。」					
5分	5世界の水について知り、自分たちにできることを考える。【3】	個人で考えを書き、グループで意見を交換し合いまとめる。	個人 グループ	・自分の考えをもたせるために、個人で考えさせる時間を取り、その後グループで話し合わせる。	・水の大切さに気付いながら自分にできることをワークシートに書くことができる。
	6考えを全体に発表する。	グループで考えたことを発表する。	一斉	全体で確認する。	
	6本時の学習をまとめる。	本時の学習の振り返り感想を発表する。			

(2) 授業の振り返り

- ・アフリカの少女と自分たちの1日を比較することで、水を得るために学校にも行けない現実を知り、水の大変さについて考えることができた。
- ・当たり前にあるものが当たり前ではなく、世界の人にとって水はとても貴重なものであることに気付いた。
- ・世界の状況を知ることで、自分たちが水を大切にするためにできることを改めて見直し、考えることができた。

【課題】

- ・仮想水の資料も提示したが、子どもたちには理解が難しかった。身近にある給食の残りを取り上げて

行くと身近に感じられたのではないか。

・環境を守ることが水を守ることにつながっているということの前時でも触れたが、子どもの思考の中で環境＝水という発想は難しかった。生活のあらゆる面で取り上げていくことで理解が深まっていくと思うので、適宜伝えていきたい。

(3) 使用教材

- ・世界の水についてのパワーポイント
- ・日本の水状況の資料
- ・アイシャと自分たちの1日のグラフ



アイシャの1日

水くみ桶へたかる (汲水)	水くみ 桶くみ	家に帰る (徒歩)	家に着く	食事	勉強	家事	ねる
午前 6:30	10:40	11:20	3:45	4:20	5:40	6:20	9:30
おきる	学	校	自由時間	宿題・習い事	夕飯	お風呂	ねる
午前 6:30	10:40	11:20	3:45	4:20	5:40	6:20	9:30

4-1のみんぼ

(4) 参考資料等

- ・世界の水問題
- ・水とジェンダー
- ・13歳のアイシャの1日～水を得るために～

JICA 地球ひろば  
独立行政法人国際協力機構 (JICA)  
日本ユニセフ協会

[https://www.unicef.or.jp/cooperate/coop\\_monthly2.html?utm\\_source=google&utm\\_medium=cpc&utm\\_campaign=monthly](https://www.unicef.or.jp/cooperate/coop_monthly2.html?utm_source=google&utm_medium=cpc&utm_campaign=monthly)

(閲覧日 2017 10.18)

8 単元を通じた児童生徒の反応/変化

1 時間目で行った「ベトナムを知ろう」の授業においては、外国について初めて知ることに興味をもち真剣に話を聞いていた。ベトナム語でのコミュニケーション活動にも楽しく取り組むことができた。授業後の感想では、他の外国や言語への興味をもった児童もいた。公開授業時に行ったので、保護者もベトナムへの関心をもち感想を述べてくれた。

【児童の感想】

- ・日本と似ているところや全然違うことなど色々わかったのが良かった。
- ・ベトナム語言い方が面白かった。いろいろな国に行ってみたいと思った。
- ・ベトナムの主食とか、初めて知ることがあったのでびっくりした。
- ・外国の伝統的な服や料理とか、どんなものがあるのか調べてみたい。



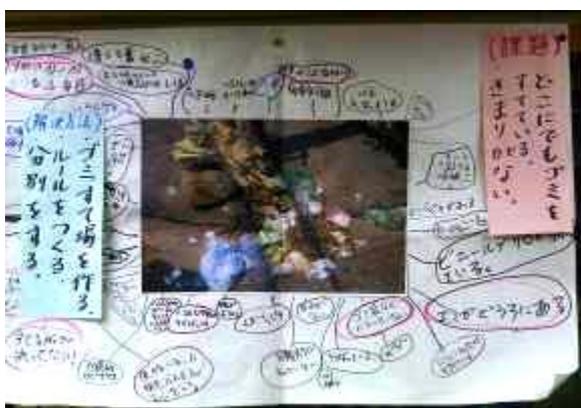


2 時間目は日本とベトナムの違いについてフォトランゲージを使って学習した。交通状況、路上で生ものを売っている様子、家の建物、寝床、トイレ、ごみ、川などの写真をもとに考えた。日本と似ている所や違う所を見つけ、意欲的に自分の気づきを書き込むことができた。

3 時間目は書き込んだフォトランゲージをもとに、ベトナムの課題について考えた。路上で生ものを売っていて衛生的でないこと、ごみを平気で川にすててしまうこと、バイクが多くて建物が汚れ、排気ガスの汚染があるなど、様々な気づきをすることができた。それをもとに、日本も数十年前は同じ状況があったことを伝え、今の日本になるまでの人々の工夫や努力に気付かせた。ベトナムの課題に対して、ルールを作ってみんなが守っていくことや日本と協力してきれいにしていくなど、色々な考えを出すことができた。日本の技術の素晴らしさ、安心安全に暮らせている環境のありがたさに改めて気づくことができた。

【児童の感想】

- ・発展途上国は発展途上国の良さがある。日本で捨てている食材をあげたい。
- ・日本と一緒に解決しないとだめだと思う。
- ・などのようなところと協力して、きれいになってほしいと思った。
- ・違う国の様子も知りたい。そしてその国が抱えている問題も考えて、解決したいと思う。



4 時間を終えてから少しずつ子どもたち生活に変化が見られた。紙は積極的にリサイクル用紙を使った。給食も「食べられない人もいるのにもったいない。」と残さずに食べるように意識していた。給食を残さない工夫についても話し合い、ルール作りもした。水についても以前よりも大切さを感じながら節水を心がけ、水を大切に使うことを呼びかけるポスターも作っていた。

【児童の感想】

- ・水がこんなに貴重な物だなんて思いませんでした。これからは水を大切にしたい。
- ・水は使う分だけ使い、無駄遣いしない。できるだけ水を節水する。
- ・日本の技術をもっといっぱい伝えたい。
- ・毎日当たり前のようになっていることは外国の人にとってはゆめのようなもの。
- ・水を大切にしなければ、地球上の生物も危ない目にあう。水や自然は大切なもの。
- ・私たちがその国に行って助けてあげることが今はできないけれど、自分たちができることは頑張っていきたい。

5 時間目では、4 時間目に出た、発展途上国の人に日本の技術を伝えたい。という児童の意見をもとにどんなことができるのかを考えた。「浄水場を作ってあげたい」「ごみを減らすために分別するように呼び

かける」など色々な意見が出た。実際に JICA がベトナム(外国)で行っている支援について紹介した。日本人の知恵や工夫、技術力について改めて気づくことができ、自国理解へとつながった。他国と協力する大切さに気付く児童もいて、海外で仕事をしてみたいという感想もあった。

5 時間目では、今まで学習してきたことをもとに新聞づくりやポスター作りに取り組んだ。世界の水について知ったことをもとに、水の大切さや自分たちができることを呼びかける内容を書くことができた。貴重な資源を大切にしていこうとする姿勢が多くの児童に見られるようになった。

## 9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

○本単元における PDCA サイクル

段階	項目
P 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画を立て、授業のねらいを明確にして指導案を作成した。</li> <li>・「他国への関心を深める。」「自国の良さに気付く」「自分にできることを考える」をねらいとした。</li> <li>・社会科の水の単元に結び付けるように内容を厳選した。</li> <li>・児童の発達段階に合わせた資料の精選をした。</li> </ul>
D 実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいに基づいて写真・具体物・動画を活用して授業を実施した。</li> <li>・フォトランゲージを使い写真から気づいたことを記入させた。</li> <li>・比較対象をもたせ、自分との違いがわかるように資料を提示した。</li> <li>・毎回ワークシートに記入させ振り返りをした。</li> </ul>
C 検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムを通して、発展途上国に興味関心をもつことができた。</li> <li>・毎時間どんなことに興味をもち、何を感じたのか感想発表を行い、全体に考えを共有できるようにした。</li> <li>・世界の水について知ることで、水を大切にしていこうために自分ができること考えたり、資源を大切にしていこうとする意識が生まれた。</li> </ul>
A 改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思っていた以上に子どもたちが外国の国名や様子について知らないことが分かった。</li> <li>・ベトナムの課題を子どもたちだけで写真をもとに考えるのは難しかった。</li> <li>・自分たちが住んでいる日本の様子についても知らないことが多くあり、外国の問題を考えさせる前に、自分たちの環境について学習する必要性を感じた。</li> <li>・視察先を上手く授業に生かすことが難しく、できないこともあった。</li> </ul>

## 10 教師海外研修に参加して

この研修を通して現地の施設や学校を訪問し現地の方の生活にも触れ、私自身がたくさんの貴重な体験をすることができた。改めて日本の技術力の高さにも気付かされ、日本と外国が互いに協力している現実についても理解を深められた。お互いが尊重し合いながら必要に応じた支援を行う大切さも知ることができた。

開発途上国でも様々な支援をもとに自国での開発が進み、発展著しい所もたくさんあることがわかった。私自身イメージしていたものと異なることもあり、開発途上国への新たな見方を発見した。

「百聞は一見に如かず」今回はとても素晴らしい機会を与えていただいたことを心から嬉しく思う。

普段何不自由なく生活しているとそれが当たり前になり、有難さを感じるができなくなる。これは当たり前ではなく、生活の中で生まれた課題を解決するための人々の工夫や努力があったことを忘れてはならない。このことをこれからも子どもたちと共に考え、感謝の気持ちをもてる児童の育成に努めたい。そして、今回の研修を一つのきっかけとして、日本だけでなくほかの国の課題にも目を向けることのできる柔軟な姿勢や広い視野をもった児童の育成に努めていく。